

## 【経済産業省出席者】

▽藤木俊光・製造産業局長、▽福永哲郎・大臣官房審議官（製造産業局担当）、▽吉村直泰・製造産業局自動車課長、▽茂木正・資源エネルギー庁省エネルギー・新エネルギー部長、▽細川成己・資源エネルギー庁資源・燃料部石油精製備蓄課長 ※藤木氏、福永氏、吉村氏、茂木氏は異動のため、肩書は当時。

## 【業界関係出席者】

▽日本自動車工業会＝長田准・総合政策委員長（トヨタ自動車執行役員）、後藤収・税制部会長（日産自動車理事）、林倫・燃料潤滑油部会長（トヨタ自動車主査）、永塚誠一・副会長・専務理事、▽福島洋・水素バリエーション推進協議会事務局長（岩谷産業専務執行役員）、▽山岡正博・日本自動車会議所専務理事



日本自動車会議所は5月13日、東京・港区の日本自動車会館「くるまプラザ」会議室で、第2回運営審議委員会（委員長＝永塚誠一・日本自動車工業会副会長）を開催し、第88回定時総会および第214回理事会の上程議案について審議しました。新型コロナウイルス感染防止の観点から、出席者の半数以上がリモートでの出席となりました。

委員会では、山岡正博専務理事の挨拶のあと、永塚委員長の議事進行に続いて、島山太作常務理事が第88回定時総会（第213回理事会上程議案）の①2021年度事業実績・2022年度事業計画案、②2021年度決算・2022年度予算案、③理事・監事選任の3議案について説明しました。また、第214回理事会上程議案である①会長選定、②副会長・専務理事・常務理事・理事（常勤）選定の2議案について説明し、審議・意見交換を経て、すべての議案は承認され、委員会は閉会となりました。

その後、第213回理事会は書面開催され、すべての議案は承認されました（決議日：5月27日）。



東京都自動車会議所は6月15日、東京・新宿区の京王プラザホテルで第76回理事会および第48回通常総会を開催し＝写真＝、令和3年度事業実績・決算報告と同4年

度事業計画・予算案を審議。いずれも原案通り承認されました。続いて第77回理事会を兼ね任期満了に伴う役員人事が審議され、会長以下、役員全員が再任されました。

通常総会は、新型コロナウイルス感染防止のため過去2年間にわたり書類審議とし、3年ぶりに対面での開催となりました。冒頭で挨拶した中川雅治会長は「新型コロナウイルスは、私たちの日常生活を変え、飲食業や輸送・観光業界に打撃を与えただけでなく、自動車関連業界にも大きな影響をもたらしました」とし、さらにロシアによるウクライナ侵攻により、景気の先行き不透明感が強まっていると現状認識を述べました。

自動車関連業界を取り巻く環境について「自動運転や環境対応の技術進展が図られる一方で、人出不足への対策と働き方改革の両立を迫られています」と急激に変化する厳しい状況を強調。これらの課題解決に向け、コロナ禍で開催できなかった都議会自民党と東京都関連部局との意見交換・要望を聞く「東京都自動車政策懇談会」を「今年度は何としても開催し、会員の皆さまが抱える課題解決と首都・東京における、クルマ社会の健全な発展のために全力を尽くしていきたい」と語りました。

続いて、令和3年度の事業実績や決算内容について事務局が説明。監事による監査報告を受けて、異議なく承認されました。その後、事務局が説明した同4年度の事業計画や予算内容についても異議なく承認されました。役員人事は全役員を再任とする候補案を事務局が説明し、議案通り承認されました。

総会終了後に行われる懇親会は、新型コロナウイルス感染状況が引き続き予断を許さない見通しであることから、今回も中止としました。〔東京都自動車会議所〕

## 討 報

東都自動車元社長  
（当会議所会員元代表者）

### 宮本 市郎氏

東都自動車を創業し、社長、会長を務められた宮本市郎（みやもと・いちろう）氏のお別れの会が6月30日、東京・千代田区の帝国ホテルで執り行われました。宮本氏は2020年4月22日に逝去。97歳でした。

## 全国の自動車会議所で トップ交代

### 5団体で新たに会長が就任



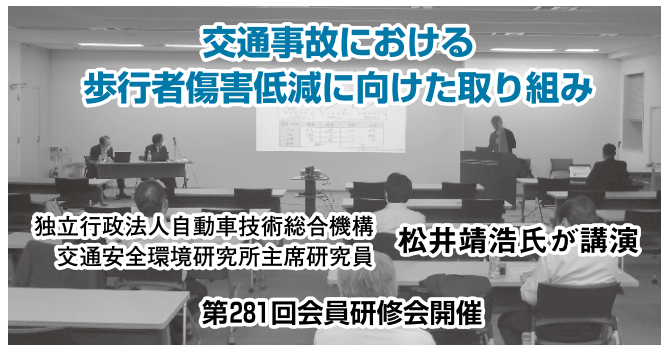
2022年度の総会シーズンが終わり、全国の自動車会議所でトップ交代が相次ぎ、これまでに5団体で新たに会長が就任しました。

まず、石川県自動車会議所では2月10日、久安重機運輸代表取締役で石川県トラック協会会長を務める久安常信氏が会長に就任。徳島県自動車会議所では3月29日、トヨタカローラ徳島ホールディングス代表取締役会長で徳島県自動車整備振興会会長、日本自動車販売協会連合会徳島県支部支部長を務める北島義貴氏が会長に就任しました。いずれも前会長の退任の意向を受けて、臨時総会が開催されました。

総会シーズンを迎え、定時総会で3団体の会長も交代

左から 青森県自動車団体連合会・小野大介会長、宮城県自動車会議所・石山稔会長、石川県自動車会議所・久安常信会長、大阪自動車会議所・藤田満会長、徳島県自動車会議所・北島義貴会長

しました。宮城県自動車会議所では5月27日、宮城ホンダ販売代表取締役社長で宮城県軽自動車協会会長を務める石山稔氏が、大阪自動車会議所では6月23日、藤田自動車社長で大阪府自動車整備振興会会長を務める藤田満氏が、青森県自動車団体連合会では6月28日、青森トヨタ自動車代表取締役社長で日本自動車販売協会連合会常任理事兼青森県支部長を務める小野大介氏がそれぞれ会長に就任しました。



独立行政法人自動車技術総合機構  
交通安全環境研究所主席研究員 **松井靖浩氏が講演**

第281回会員研修会開催

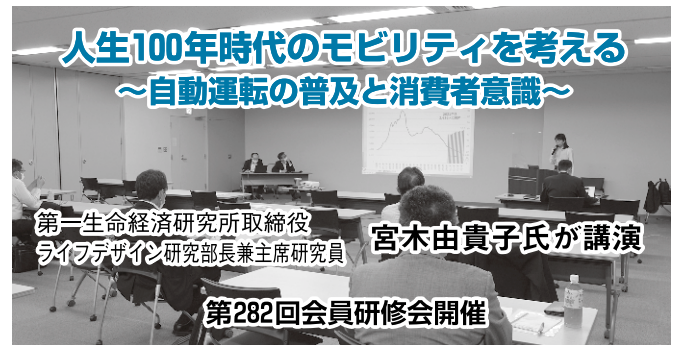
日本自動車会議所は4月13日、東京都港区の日本自動車会館で第281回会員研修会を開催し、独立行政法人自動車技術総合機構交通安全環境研究所主席研究員の松井靖浩氏が、「交通事故における歩行者傷害低減に向けた取り組み」をテーマに講演しました。新型コロナウイルス感染対策として、会場ではソーシャルディスタンスなどを引き続き実施。リモート配信も併用し、全国から計約70名が参加しました。



松井 靖浩氏

講演では、日本の交通事故死者数のうち歩行中死者数が最も多く、歩行者保護対策が重要な課題と指摘。クルマと歩行者との危険な接近条件について、ニアミス映像等を交え、詳しく解説しました。

最近では年齢層別の歩行中死者数で65歳以上が74%に上っており、高齢歩行者の道路横断事故が起きる特性を調べた各種データも紹介。歩行者や自転車を検知できる先進安全技術のカメラやブレーキ、センサーなどクルマに搭載する「衝突被害軽減装置の普及が有効」などとも強調しました。



第一生命経済研究所取締役  
ライフデザイン研究部長兼主席研究員 **宮木由貴子氏が講演**

第282回会員研修会開催

日本自動車会議所は5月17日、東京・港区の日本自動車会館で第282回会員研修会を開催しました。会場では新型コロナウイルス感染対策を引き続き実施、リモート配信も併用し、全国から計約50名が参加。今回は「人生100年時代のモビリティを考える～自動運転の普及と消費者意識～」をテーマに、講師には第一生命経済研究所取締役でライフデザイン研究部長兼主席研究員の宮木由貴子氏をお迎えしました。



宮木 由貴子氏

講演では、国内外で自動運転の可能性が検討される中、日本の課題として関連性が強いのが「高齢化」と説明。自身も関わっている政府の消費スタイルや消費者意識の変化に関する調査研究データ・事例動画を交えながら、自動運転を取り巻く現状について解説しました。高齢化に伴う地域の移動手段の課題解決には、公共交通として自動運転車両を導入する「代替交通の創出」などを挙げ、運転負荷の軽減やドライバー不足の解消、移動弱者の支援につながると強調しました。

アンケートでは「自動運転の開発・普及による社会の変化に期待している」との回答が7割近くに達しており、

自動運転技術への信頼性を高める努力が必要とも指摘。現行の自動ブレーキなど先進安全技術を搭載したセーフティ・サポートカー（サポカー）の利用についても言及しました。

最後に自動運転の社会実装に向けては「消費者の情報を増やして認知度・理解度を上げるアクション、消費者の行動を喚起するアクションが必要」として、“産官学民”4者が連携していく重要性を訴えました。

## 新宿通りで交通安全イベント 警視庁新宿署が2年ぶりに開催

協力団体として当会議所がサポカーを展示  
スタントマンによる事故を再現する交通安全教室も



警視庁新宿警察署は5月29日、東京・新宿区の新宿通りで交通安全イベントを開催し、多くの来場者で賑わいました。新型コロナウイルスの感染状況を見極めた上で、2年ぶりに開催されましたが、当会議所も協力団体としてこのイベントに参画し、トヨタ、日産、ホンダより安

全運転サポート車（サポカー）の提供を受けて展示しました＝左写真＝。

会場は、新宿通りの新宿スタジオアルタ前～伊勢丹前までの公道を一時的に歩行者専用として使用。メイン会場の新宿アルタ前ではスタントマンによる「スケアード・ストレイト交通安全教室」＝右写真＝が行われたほか、伊勢丹前までの通りにパトカーや白バイ、サポカーなどが展示されました。また、路線バスによる死角体験会や電動キックボードなどの試乗会も実施されるなど、子どもから大人までが楽しめるイベントとして開催されました。

メイン会場で行われた「スケアード・ストレイト」は、事故現場の再現による交通安全教育の手法の一つで、小・中学校、高等学校、地域などの交通安全教室で広く採用されています。実際に起きた交通事故の模様や、事故につながる危険な行為、事故の発生しやすい場所・状況などを再現。プロのスタントマンがその場で実演し、事故の状況や原因を具体的に伝え、事故の恐怖を目の当たりにすることで、交通ルールを守ることの大切さを実感させることを狙っています。

本イベントでは自転車とクルマ間の事故の模擬シーンをスタントマンが実演し、交通安全に対する啓発活動を行いました。スタントマンの迫真の演技に、多くの来場者が見入っていました。



東京都都民安全推進部、警視庁、東京都交通安全協会は7月1日から7日まで、飲酒運転による重大交通事故の抑止を目的に「2022年飲酒運転させないTOKYOキャンペーン」を実施しました。酒類販売量が増加する7月に合わせ、飲酒運転をさせない社会環境の醸成と飲酒運転根絶機運の定着を図る取り組みです。

初日である1日には、東京・有明の有明ガーデンでキックオフイベントが開催され、ゲストとして「ももいろクローバーZ」が登場。メンバーそれぞれが安全運転の想いなどを語り、最後に主催者らと共に決めポーズ＝写真＝で会場を盛り上げました。

同キャンペーンは、2006年に福岡市で発生した、飲酒運転により幼い子どもが亡くなった痛ましい事故をきっかけ

に始まりました。しかし、昨年6月の千葉県八街市で5人の児童が死傷する事故など、飲酒運転による死亡事故は全国で続いています。飲酒運転を起因とする交通事故件数は下げ止まっているものの、死亡事故は2019年以降、増加傾向にあります。

このような現状について、小室明子・都民安全推進部長は主催者挨拶の中で「いまだ都内でも飲酒運転の根絶ができていません。運転手への取り締まりだけでは限界があり、飲食店や家族、友人などの協力を得るなど社会全体で取り組む必要があります。都は世界一の交通安全都市を目指し、交通安全対策を強化していきます」と語りました。

続いて「ももいろクローバーZ」のメンバー4人とピーポ君による交通安全教室と交通安全トークが行われ、飲酒後はキックボードや自転車にも乗ってはいけないなど、見逃しがちな基本を学びました。

都はキャンペーン期間中、飲食店や職場に飲酒運転根絶ステッカーやシールの掲示を求めるほか、各警察署や区市町村と連携し交通安全教室や研修などを実施。家庭や地域向けに啓発活動を行うとともに、街頭ビジョンを活用した広報活動などに取り組みました。

〔東京都自動車会議所〕